

—全員が主役になる授業づくり①—

5月10日に笠井調査官をお招きして、西部地区の課題に対する方策を話し合う協議や講演会を開催しました。その中で、身に付けるべき力をどう定着につなげていくか、授業後半を充実させる具体的な手立てについて御指導いただきました。今月は、今年度の全国学力・学習状況調査 算数Aの問題を例に一人一人が図を書けるようにするための手立てについて考えてみたいと思います。

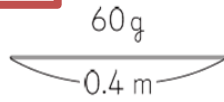
<笠井調査官より>

ポイント1 説明する力を付けるためには、子供自ら図がかけられるようになることが大切

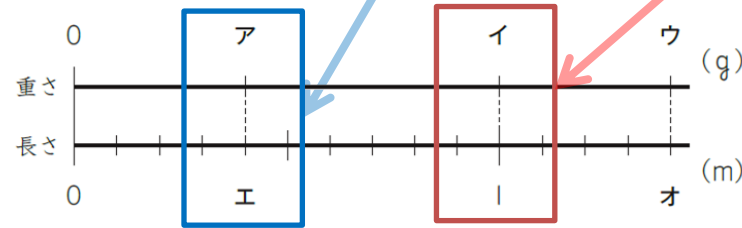
ポイント2 友達が図をかきながら説明するのを聞いて、理解を深めることが大切(聞き手を育てる)

全国学力・学習状況調査 算数A問題より

- 1 0.4 mの重さが60gの針金があります。
この針金について、次の問題に答えましょう。
- (2) 針金1 mの重さが何gになるかを考えます。



1 mの重さを□gとして、針金の長さ^{はりがね}と重さの関係を下の図に表します。
針金0.4 mの「0.4」、0.4 mの重さ60gの「60」、1 mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。
ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



小数の除法の問題場面において、二つの数量の関係を数直線に表すことができるかどうかを見る問題です。



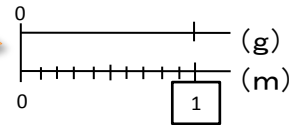
子供たちが自分の力で図をかき、問題を解くために使うことができるようになるためには、日々の授業でどのような指導が必要でしょうか？

ポイント1 数直線と目盛りを入れた図を用意し、発表者が図をかきながら説明できるようにする。



図をかきながら説明してください。
まず、どこにどんな数字が入りますか？

教師が準備した図



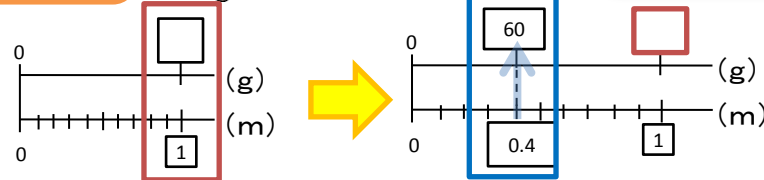
1 mあたりの重さ□gを1と見ます。



0.4 mの重さが60gです。



◇何を1と見ているか？ ◇0.4や60をこの図のどこにかけばよいのか？等、説明を聞く視点を聞き手に与えることが理解を深めることにつながります。



この図から、□gを1と見たときの0.4にあたる重さが60gであることが分かります。

ポイント2 図の中の数字の意味について改めて聞き手に問う



- ◇Aさん(発表者)は、何を1と見たのですか？
- ◇60と0.4は何を表していますか？
- ◇この図から分かることをAさん(発表者)と同じように言えますか？



例えば「Aさん(発表者)の言ったことを言えますか？」と数人に聞いた後、ペアやグループで自分の言葉で言えるか確認(全員アウトプット)することで聞き手も主役となることができます。

☆全員アウトプットすることで定着を図るために、指導事項を明確にして、導入をコンパクトにするなど授業後半に時間をかけることができるようタイムマネジメントすることも大切です。